

定される。

今後さらに妊婦の状況との詳細なクロスが必要になってくるものと思われる。妊娠期間中に多量に用いられていたミネラル等添加総合ビタミン剤では先天異常（メジャー）は発生していなかった。

おわりに

今回は単胎、生産児の先天異常（メジャー）発生率と薬剤服用との関係、代表的な先天異常の薬剤服用状況について検討を加えたが、調査しえた先天異常（メジャー）と薬剤との間には一定の傾向はえられなかった。むしろ母体側の種々の要因がその発生に関与していると思われる。

7 先天異常とう蝕罹患

池田正一

この報告は、異常児発生要因調査対象児のなかから先天異常とされた患児のう蝕罹患状態を知る目的で行なったもので、この報告に用いた資料は、同調査の4才時点における各歯群別乳歯う蝕罹患状態と先天異常と確定されたもののうち奇形（メジャー）とされたもの（表1-②）

それらのなかからとくに従来う蝕罹患率が高いとされている脳神経系の疾患（表KL-1）、口唇口蓋裂児（表KL-2）、心血管系の疾患児（表KL-3）と正常児群（表1-①）とのクロス集計によって得られたものである。

乳歯う蝕の状態は、さきの報告に用いたと同様に、上下顎別左右乳白歯群、乳犬歯、乳中側切歯の10群にわけた各歯群別ごとに初期う蝕（C1、C2）高度う蝕（C3、C4）および健全歯（Cなし）にわけた区分を用いた。

その結果、先天異常をもつ児と正常児の間にはう蝕罹患に差は認められなかった。なかでも唇裂口蓋裂児群においては、上顎乳白歯、下顎乳前歯部にう蝕が多くみられたが、脳神経系の患児ではむしろ健全歯が多くみられた部位もあった。これは過去の報告からもこの種障害児のう蝕が増令とともに増加することから先天異常と cariogenic なものとは必ずしもむすびつかず、むしろその後の食生活を中心とした療育の問題、あるいは歯科治療の問題と関連しているのではないかと思われる。したがって7才時期における調査に今後検討を加えたいと思う。

表1-① 正常群（先天異常以外）と部位別カリエス

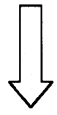
部位 カリエス	部位1		2		3		4		5		6		7		8		9		10	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
C1 C2	2513	354	1153	163	3034	427	1131	160	2564	361	2684	378	518	73	573	81	549	77	2667	376
C3 C4	557	78	188	26	928	130	204	28	586	83	1179	166	35	05	24	03	36	05	1211	170
如層齒 欠如齒Cのみ	720	101	144	20	396	56	142	20	699	98	1554	218	48	07	129	18	50	07	1580	222
Cなし	3313	467	5611	791	2746	387	5616	790	3254	458	1688	238	6498	915	6378	898	6466	911	1647	232
小計	7103	1000	7096	1000	7104	1000	7093	1000	7103	1000	7105	1000	7099	1000	7104	1000	7101	1000	7105	1000
不明	70		77		69		80		70		68		74		69		72		68	
合計	7173		7173		7173		7173		7173		7173		7173		7173		7173		7173	

表1-② 奇形（メジャー）と部位別カリエス

部位 カリエス	部位1		2		3		4		5		6		7		8		9		10	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
C1 C2	461	358	219	170	568	441	219	170	466	361	465	361	95	73	109	85	95	74	492	382
C3 C4	105	81	34	26	165	128	36	28	111	87	213	166	7	06	5	04	8	06	220	170
如層齒 欠如齒Cのみ	128	99	30	24	75	57	34	26	115	89	285	220	15	12	24	18	16	12	277	216
Cなし	595	462	1005	780	481	374	999	775	596	463	326	253	1172	909	1151	893	1169	908	299	232
小計	1289	1000	1288	1000	1289	1000	1288	1000	1288	1000	1289	1000	1289	1000	1289	1000	1288	1000	1288	1000
不明	10		11		10		11		11		10		10		10		11		11	
合計	1299		1299		1299		1299		1299		1299		1299		1299		1299		1299	

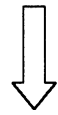
表KL-3 先天性心疾患をもつものの部位別カリエス

部位 カリエス	部位1		2		3		4		5		6		7		8		9		10	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
C1 C2	9	2501	2	56	15	416	4	111	11	306	17	472	2	56	-	-	2	56	18	514
C3 C4	2	56	1	28	6	167	1	28	4	111	4	112	-	-	-	-	-	-	3	84
如置歯 欠如歯Cのみ	4	111	-	-	3	84	-	-	4	111	7	194	-	-	-	-	-	-	7	200
Cなし	21	583	33	916	12	333	31	861	17	472	8	222	34	944	36	1000	34	944	7	200
小計	36	1000	36	1000	36	1000	36	1000	36	1000	36	1000	36	1000	36	1000	36	1000	36	1000
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	36	-	36	-	36	-	36	-	36	-	36	-	36	-	36	-	36	-	36	-



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



この報告は、異常児発生要因調査対象児のなかから先天異常とされた患児のう蝕罹患状態を知る目的で行なったもので、この報告に用いた資料は、同調査の4才時点における各歯群別乳歯う蝕罹患状態と先天異常と確定されたもののうち奇形(メジャー-)とされたもの(表1-)

それらのなかからとくに従来う蝕罹患率が高いとされている脳神経系の疾患(表KL-1)、口唇口蓋裂児(表KL-2)、心血管系の疾患か児(表KL-3)と正常児群(表1-(1))とのクロス集計によって得られたものである。